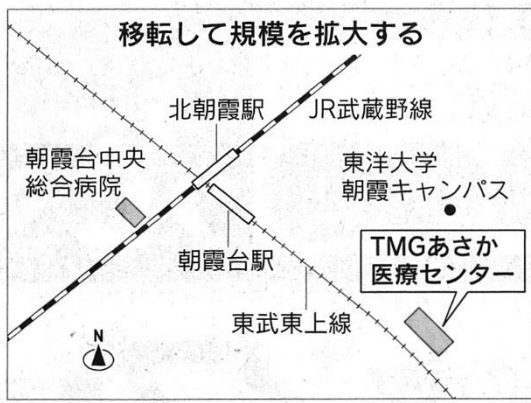


# 朝霞に大規模医療拠点

首都圏を中心に28病院を運営する戸田中央医科グループ(TMG、埼玉県戸田市)は、朝霞中央総合病院(朝霞市)を2018年1月1日に新築移転する。病床を120増やして446床とするほか、診療科や手術室も拡充。救急患者の受け入れ体制も強化する。県南西部では人口流入が続いており、地域医療の柱となる急性期病院としての役割を担う。



## TMG、中央総合病院を移転

### 急患対応拡充 災害時拠点に

現在の病院から南東約800mにある旧東洋大学朝霞キャンパス総合体育館跡地に「TMGあさか医療センター」と名称変更して移転する。地上7階建てで延べ床面積は約2万5509平方m。446の病床はグループで最大級の規模となる。診療科は新たに緩和ケア、歯科口腔(こうくう)外科、精神科、神経内科を加えて計26科とする。病院スタッフは約1100人。うち常勤医は約100人を確保する見込みで、1日の外来患者は今の約1.5倍の1300~1500人程度になると見込む。手術室も4

建物には最先端の免震技術が採用され、災害時の拠点としての機能も高まる



室から8室に倍増し、年間約6000件の手術への対応をめざす。施設増強に伴い、救急患者の受け入れ体制の拡充に力を入れる。現在は年間約5000件を受け入れているが、心臓カテーテル手術などにも対応できる体制を整え、約7000件まで可能になると見込む。歯科口腔外科も置くため、交通事故患者に多い口や顎のけがも同じ病院内で手当てできるようにする。

国内ではまだ珍しいがんの専門治療を担う部門や、最新型のコンピュータ断層撮影装置(CT)、磁気共鳴画像装置(MRI)などを設ける。20床の緩和ケア病棟も整備し、終末期医療への対応力を高める。TMGの担当者は「地域医療に必要な機能をコンパクトにまとめた」と強調する。

移転で広い用地を確保できたことで、災害時の医療拠点としての機能も高まる。新たな建物は免震装置を組み込み、大地震でも医療を継続できる構造にした。乗用車289台分の駐車場は地域住民の避難場所として使える。

朝霞市や周辺の新座、和光、志木の各市では東京のベッドタウンとして人口増加が続く。今後、高齢化の進展に伴い医療需要が急激に増えるの見込まれ、あさか医療センターが担う役割は大きい。TMGは23日に一般市民向けの内覧会を実施する予定。地域住民にセンターの役割や機能に触れてもらい、地域医療の新たな拠点としての理解を深める第一歩として考えている。